

I

- 解答 ア $x+1$ イ $5-2x$ ウ 1 エ 2 オ $-x^2+11x-12$ カ $24(x^3-6x^2+11x-6)$ キ $\sqrt{6(x^3-6x^2+11x-6)}$
ク $\frac{6-\sqrt{3}}{3}$ ケ $\frac{2}{\sqrt{3}}$

解説

- ア 問題より, $BC = AB + 1 = x + 1$
イ 問題より, $AB + BC + CA = 6$ だから, $CA = 6 - x - (x + 1) = 5 - 2x$
ウ ~ エ 三角形の成立条件より, $|BC - AB| < CA < BC + AB$, すなわち, $1 < 5 - 2x < 2x + 1$ であり, この不等式を解いて, x の取りうる値の範囲は $1 < x < 2$ である.
オ 余弦定理より

$$AB \cdot BC \cos B = x(x+1) \cdot \frac{x^2 + (x+1)^2 - (5-2x)^2}{2x(x+1)} = \frac{x^2 + (x+1)^2 - (5-2x)^2}{2} = \underline{\underline{-x^2 + 11x - 12}}$$

カ

$$\begin{aligned} AB^2 \cdot BC^2 \sin^2 B &= AB^2 \cdot BC^2 (1 - \cos^2 B) = AB^2 \cdot BC^2 - (AB \cdot BC \cos B)^2 \\ &= x^2(x+1)^2 - (-x^2 + 11x - 12)^2 = \underline{\underline{24(x^3 - 6x^2 + 11x - 6)}} \end{aligned}$$

- キ $\triangle ABC$ の面積を S とすると,

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} AB \cdot BC \sin B = \frac{1}{2} \sqrt{AB^2 \cdot BC^2 \sin^2 B} = \frac{1}{2} \sqrt{24(x^3 - 6x^2 + 11x - 6)} \quad (\text{カの結果より}) \\ &= \underline{\underline{\sqrt{6(x^3 - 6x^2 + 11x - 6)}}} \end{aligned}$$

- ク ~ ケ $f(x) = x^3 - 6x^2 + 11x - 6$ とおくと, $1 < x < 2$ において,

$$f'(x) = 3x^2 - 12x + 11 = 3 \left(x - \frac{6-\sqrt{3}}{3} \right) \underbrace{\left(x - \frac{6+\sqrt{3}}{3} \right)}_{\text{負}} \quad \left(1 < \frac{6-\sqrt{3}}{3} < 2 < \frac{6+\sqrt{3}}{3} \right)$$

であり, この符号は $x - \frac{6-\sqrt{3}}{3}$ の符号と逆になる. よって, $f(x)$ の増減は以下のようになる.

x	(1)	...	$\frac{6-\sqrt{3}}{3}$...	(2)
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$		↗	最大	↘	

この増減表より, $S (= \sqrt{6f(x)})$ の最大値を与える x の値は $x = \frac{6-\sqrt{3}}{3}$ ($= \alpha$ とおく) であり, 最大値は

$$\begin{aligned} \sqrt{6f(\alpha)} &= \sqrt{6\alpha^3 - 36\alpha^2 + 66\alpha - 36} = \sqrt{(3\alpha^2 - 12\alpha + 11)(2\alpha - 4) - 4\alpha + 8} \\ &= \sqrt{-4\alpha + 8} \quad (3\alpha^2 - 12\alpha + 11 = 0 \text{ より}) \\ &= \sqrt{-4 \cdot \frac{6-\sqrt{3}}{3} + 8} = \sqrt{\frac{4}{\sqrt{3}}} = \underline{\underline{\frac{2}{\sqrt[4]{3}}}} \end{aligned}$$

である.

II

[1] ア 0 イ -19 ウ 2 エ -19

[2] オ 27 カ 10

[3] キ $-\frac{\log(\log a)}{\log a}$ ク $e < a$

[4] ケ 23

■ 解説 □

[1] $f(x) = e^x - x - 20$ について,

$$f'(x) = e^x - 1$$

$f'(x) = 0$ となる x は, $e^x = 1$, すなわち $x = 0$

$f(x)$ の増減表は右表の通りであるので, $f(x)$ は $x = \underset{\sim}{0}$ のとき最小値 $\underset{\sim}{-19}$ をとる.

x	...	0	...
$f'(x)$	-	0	+
$f(x)$	\searrow	-19	\nearrow

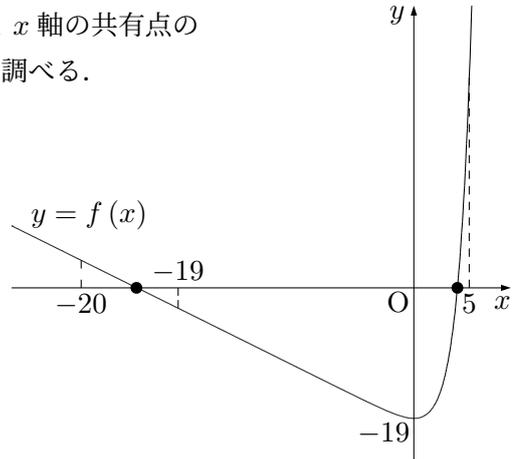
次に, 方程式 $f(x) = 0$ の解の個数は, $y = f(x)$ と x 軸の共有点の個数と同じであるので, $y = f(x)$ のグラフについて調べる.

$$f(-20) = e^{-20} + 20 - 20 = e^{-20} > 0$$

であり, $e > 2.718 > 2$ であることから,

$$f(5) = e^5 - 5 - 20 > 2^5 - 25 = 7 > 0$$

また, $f(x)$ の増減表より, $y = f(x)$ のグラフは右図のようになるので, 方程式 $f(x) = 0$ の解の個数は $\underset{\sim}{2}$ 個である.



さらに, e^x は常に単調増加であることから, $x < 0$ において, $e^x < e^0 = 1$

これより,

$$f(-19) = e^{-19} + 19 - 20 = e^{-19} - 1 < 0$$

であることから, $f(x) < 0$ を満たす整数 x の中で最小のものは $\underset{\sim}{-19}$ である.

[2] $\frac{27}{10} = 2.7 < 2.718 < e < 2.719 < 2.8 = \frac{28}{10}$

であるので, $\frac{n}{10} < e < \frac{n+1}{10}$ を満たす自然数 n は, $n = \underset{\sim}{27}$ である.

また,

$$\frac{10}{4} = 2.5 < 2.718 < e < 2.719 < 2.75 = \frac{11}{4}$$

であるので, $\frac{n}{4} < e < \frac{n+1}{4}$ を満たす自然数 n は, $n = \underset{\sim}{10}$ である.

[3] $a > 1$ において, $g(x) = a^x - x - 20$ について,

$$g'(x) = a^x \log a - 1$$

$g'(x) = 0$ となる x は, $a > 1$ より $\log a > 0$ であるので,

$$a^x \log a = 1$$

$$a^x = \frac{1}{\log a}$$

両辺に底が a の対数をとると,

$$x = \log_a \frac{1}{\log a} = -\log_a (\log a) = -\frac{\log (\log a)}{\log a}$$

$g(x)$ の増減表は右上表の通りであるので, $g(x)$ は $x = \underbrace{-\frac{\log (\log a)}{\log a}}_{\text{キ}}$ のとき最小値をとる.

x	...	$-\frac{\log (\log a)}{\log a}$...
$g'(x)$	-	0	+
$g(x)$	\searrow	最小	\nearrow

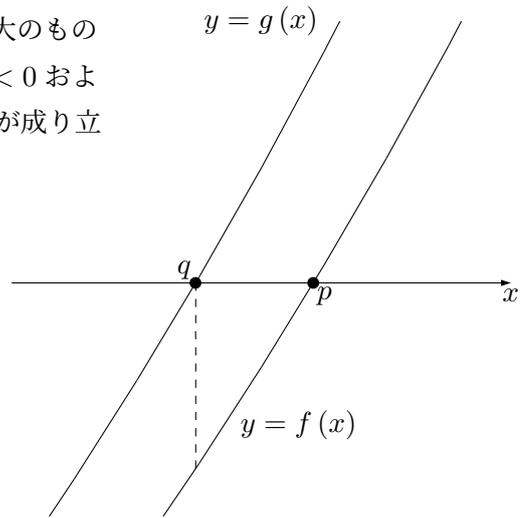
また, 方程式 $f(x) = 0, g(x) = 0$ を満たす x で最大のものをそれぞれ p, q とすると, $a > 1$ と, $g(0) = -19 < 0$ および $g(x)$ の増減より, $q > 0$ である. よって, $q < p$ が成り立つための必要十分条件は, $f(x), g(x)$ の増減より,

$$f(q) < g(q) = 0$$

すなわち, $e^q - q - 20 < a^q - q - 20$

これを整理すると, $e^q < a^q$

以上より, $\underbrace{e < a}_{\text{ケ}}$



[4] [2] より, $\frac{5}{2} < e < \frac{11}{4}$ であるので,

$$f(3) = e^3 - 3 - 20$$

$$< \left(\frac{11}{4}\right)^3 - 23 = \frac{1331}{64} - \frac{1472}{64} < 0$$

$$f(4) = e^4 - 4 - 20 > \left(\frac{5}{2}\right)^4 - 24 = \frac{625}{16} - \frac{384}{16} > 0$$

であり, $f(x)$ の増減から, $3 < p < 4$ が成り立つ.

これと [1] のグラフを合わせると, $f(x) < 0$ を満たす x で整数であるものは,

$x = -19, -18, \dots, 2, 3$ の合計 $\underbrace{23}_{\text{ケ}}$ 個存在する.

III

- [1] ア 2 イ 1 ウ 2 エ 5 オ 2
 [2] カ $2 + \sqrt{5}$ キ $2 - \sqrt{5}$ ク $(-1)^n$ ケ $2 + \sqrt{5}$ コ $2 - \sqrt{5}$
 [3] サ $-\frac{3}{4}$ シ $\frac{1}{4}$

■解説□

命題 P

p, q, r, s が有理数, かつ α が無理数のとき, $p + q\alpha = r + s\alpha$ が成り立つならば, $p = r$ かつ $q = s$ である.

以下, 命題 P を証明する.

(証明)

$p + q\alpha = r + s\alpha \cdots \textcircled{1}$ が成り立つとき $q \neq s$ であると仮定すると, $\textcircled{1}$ は $(q - s)\alpha = r - p$, すなわち $\alpha = \frac{r - p}{q - s}$ となるがこの式の左辺, 右辺はそれぞれ無理数, 有理数であり不合理が生じた.

よって $q = s$ であり, すると $\textcircled{1}$ は $p + q\alpha = r + q\alpha$, すなわち $p = r$ となる.

[1] $a_n + \sqrt{5}b_n = (2 + \sqrt{5})^n \cdots \textcircled{2}$ とする.

$\textcircled{2}$ の両辺で $n = 1$ として $a_1 + \sqrt{5}b_1 = 2 + \sqrt{5}$ を得る. 今, a_1, b_1 は有理数なので命題 P により $a_1 = 2, b_1 = 1$ となる.

$\textcircled{2}$ より

$$a_{n+1} + \sqrt{5}b_{n+1} = (2 + \sqrt{5})^{n+1}$$

$$a_{n+1} + \sqrt{5}b_{n+1} = (2 + \sqrt{5}) (2 + \sqrt{5})^n$$

$$a_{n+1} + \sqrt{5}b_{n+1} = (2 + \sqrt{5}) (a_n + \sqrt{5}b_n) \cdots \textcircled{2}'$$

$$a_{n+1} + \sqrt{5}b_{n+1} = (2a_n + 5b_n) + \sqrt{5}(a_n + 2b_n)$$

となる. 今, $a_n, b_n, a_{n+1}, b_{n+1}$ は有理数なので命題 P により $a_{n+1} = 2a_n + 5b_n \cdots \textcircled{3}$, $b_{n+1} = a_n + 2b_n \cdots \textcircled{4}$ となる.

[2] $\textcircled{2}'$ より $c_{n+1} = (2 + \sqrt{5})c_n \cdots \textcircled{5}$ となる. さらに $\textcircled{3}$, $\textcircled{4}$ から

$$\begin{aligned} a_{n+1} - \sqrt{5}b_{n+1} &= (2a_n + 5b_n) - \sqrt{5}(a_n + 2b_n) \\ &= (2 - \sqrt{5})(a_n - \sqrt{5}b_n) \end{aligned}$$

が得られ, これより $d_{n+1} = (2 - \sqrt{5})d_n \cdots \textcircled{6}$ となる.

$\textcircled{5} \times \textcircled{6}$ より,

$$\begin{aligned} c_{n+1}d_{n+1} &= (2 + \sqrt{5})(2 - \sqrt{5})c_nd_n \\ &= -c_nd_n \end{aligned}$$

となり, これと $c_1 (= a_1 + \sqrt{5}b_1) = 2 + \sqrt{5}$, $d_1 (= a_1 - \sqrt{5}b_1) = 2 - \sqrt{5}$ から得られる $c_1d_1 = -1$ より, $\{c_nd_n\}$ は初項 -1 , 公比 -1 の等比数列であり, $c_nd_n = (-1)^n \dots$ ⑦ となる.

② より $c_n = (2 + \sqrt{5})^n$ である. これと ⑦ より,

$$\begin{aligned} d_n &= \frac{(-1)^n}{c_n} \\ &= \left(\frac{-1}{2 + \sqrt{5}} \right)^n \\ &= (2 - \sqrt{5})^n \end{aligned}$$

となり, $a_n - \sqrt{5}b_n = (2 - \sqrt{5})^n \dots$ ⑧ が得られる. (② + ⑧) $\div 2$, (② - ⑧) $\div 2\sqrt{5}$ より, それぞれ $a_n = \frac{(2 + \sqrt{5})^n + (2 - \sqrt{5})^n}{2}$, $b_n = \frac{(2 + \sqrt{5})^n - (2 - \sqrt{5})^n}{2\sqrt{5}}$ を得る.

[3] [2] の結果から,

$$\begin{aligned} s_n &= \sum_{k=1}^n (a_k - \sqrt{5}b_k) \\ &= \sum_{k=1}^n d_k \\ &= \sum_{k=1}^n (2 - \sqrt{5})^k \end{aligned}$$

となり, よって $\lim_{n \rightarrow \infty} s_n \left(= \sum_{k=1}^{\infty} (2 - \sqrt{5})^k \right)$ は初項 $2 - \sqrt{5}$, 公比 $2 - \sqrt{5}$ の無限等比級数である.

$\sqrt{4} < \sqrt{5} < \sqrt{9}$ より $-1 (= 2 - \sqrt{9}) < 2 - \sqrt{5} < (2 - \sqrt{4} =) 0$ であるからこの無限等比級数は収束し, その和は

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} s_n &= \frac{2 - \sqrt{5}}{1 - (2 - \sqrt{5})} \\ &= \frac{2 - \sqrt{5}}{\sqrt{5} - 1} \\ &= \frac{(2 - \sqrt{5})(\sqrt{5} + 1)}{5 - 1} \\ &= -\frac{3}{4} + \frac{1}{4}\sqrt{5} \end{aligned}$$

となる.

[IV]

- (1) ア 3 イ $\frac{2}{9}$ ウ 0 エ $\frac{1}{3}$ オ $\frac{1}{4} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{3} \right)^{n-1} \right\}$
 (2) カ 4 キ $\frac{1}{2}$ ク $\begin{cases} 1 & (n=0) \\ \frac{1}{6} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2} \right)^{n-1} \right\} & (n \geq 1) \end{cases}$

■解説□

[1] 正四面体のある1つの頂点について、それと隣接する頂点は 3 個ある。

正四面体のある1つの頂点を A, 隣接する3つの頂点を B_1, B_2, B_3 とし, 点 A から出発するとする。

動点が n 回移動した後に点 A にある事象を A_n とする。

$$P(A_0) = 1$$

動点が点 A にあるとき, 動点は点 A 以外の隣接する頂点 B_1, B_2, B_3 のいずれかに移動するから

$$P_{A_{n-1}}(A_n) = \text{0} \quad (n \geq 1)$$

動点が点 A 以外 (B_1, B_2, B_3) にあるとき, 動点は点 A に確率 $\frac{1}{3}$ で移動するから

$$P_{\overline{A_{n-1}}}(A_n) = \text{1/3} \quad (n \geq 1)$$

$$\begin{aligned} P(A_{n+1}) &= P(A_n)P_{A_n}(A_{n+1}) + P(\overline{A_n})P_{\overline{A_n}}(A_{n+1}) \\ &= P(A_n) \cdot 0 + (1 - P(A_n)) \cdot \frac{1}{3} \\ &= -\frac{1}{3}P(A_n) + \frac{1}{3} \end{aligned}$$

変形して $P(A_{n+1}) - \frac{1}{4} = -\frac{1}{3} \left\{ P(A_n) - \frac{1}{4} \right\}$

数列 $\left\{ P(A_n) - \frac{1}{4} \right\}$ は第0項 $P(A_0) - \frac{1}{4} = \frac{3}{4}$, 公比 $-\frac{1}{3}$ の等比数列であるから

$$P(A_n) - \frac{1}{4} = \frac{3}{4} \left(-\frac{1}{3} \right)^n$$

よって $P(A_n) = \text{1/4} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{3} \right)^{n-1} \right\}$

$n=3$ として $P(A_3) = \frac{1}{4} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{3} \right)^2 \right\} = \text{2/9}$

[2] 正八面体のある1つの頂点について、それと隣接する頂点は 4 個ある。

正八面体のある1つの頂点を A, 隣接する4つの頂点を B_1, B_2, B_3, B_4 , それ以外の頂点を C とし, 点 A から出発するとする。

動点が n 回移動した後に

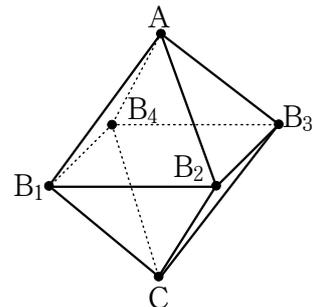
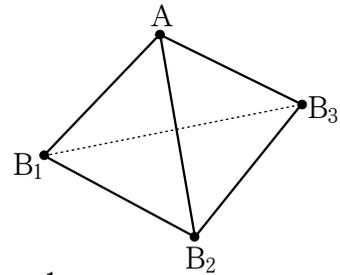
点 A にある事象を A_n

点 B_1, B_2, B_3, B_4 のいずれかにある事象を B_n

点 C にある事象を C_n

とする。

$$P(A_0) = 1, P(B_0) = 0, P(C_0) = 0$$



動点が点 B_1, B_2, B_3, B_4 のいずれかにあるとき、動点は点 A または点 C に確率 $\frac{1}{2}$ で移動するから

$$P_{B_{n-1}}(\overline{B_n}) = \boxed{\frac{1}{2}}_{\text{キ}}, P_{B_{n-1}}(B_n) = \frac{1}{2} \quad (n \geq 1)$$

動点が点 A または点 C にあるとき、動点は B_1, B_2, B_3, B_4 のいずれかに確率 1 で移動するから

$$\begin{aligned} P_{\overline{B_{n-1}}}(B_n) &= 1 \quad (n \geq 1) \\ P(B_{n+1}) &= P(B_n)P_{B_n}(B_{n+1}) + P(\overline{B_n})P_{\overline{B_n}}(B_{n+1}) \\ &= P(B_n) \cdot \frac{1}{2} + (1 - P(B_n)) \cdot 1 \\ &= -\frac{1}{2}P(B_n) + 1 \end{aligned}$$

$$\text{変形して } P(B_{n+1}) - \frac{2}{3} = -\frac{1}{2} \left\{ P(B_n) - \frac{2}{3} \right\}$$

数列 $\left\{ P(B_n) - \frac{2}{3} \right\}$ は第 0 項 $P(B_0) - \frac{2}{3} = -\frac{2}{3}$, 公比 $-\frac{1}{2}$ の等比数列であるから

$$P(B_n) - \frac{2}{3} = -\frac{2}{3} \left(-\frac{1}{2} \right)^n$$

$$\text{よって } P(B_n) = \frac{2}{3} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2} \right)^n \right\}$$

動点が B_1, B_2, B_3, B_4 のいずれかにあるとき、動点は点 A に確率 $\frac{1}{4}$ で移動するから

$$P_{B_{n-1}}(A_n) = \frac{1}{4} \quad (n \geq 1)$$

$n \geq 1$ のとき

$$\begin{aligned} P(A_n) &= P(B_{n-1})P_{B_{n-1}}(A_n) = \frac{2}{3} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2} \right)^{n-1} \right\} \cdot \frac{1}{4} \\ &= \frac{1}{6} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2} \right)^{n-1} \right\} \end{aligned}$$

よって、動点が n 回移動した後に出発した頂点にある確率は

$$P(A_n) = \boxed{\begin{cases} 1 & (n=0) \\ \frac{1}{6} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2} \right)^{n-1} \right\} & (n \geq 1) \end{cases}}_{\text{ク}}$$